

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげています。「明るさ、優しさ、おおらかさ」- 尊厳を守り、自立を助け、心に寄り添うケアによってその人に最善の日々がもたらされますように - というものです。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいます。具体的にはホーム内での掲示の他、名札の裏にも理念が記載されており常に思い起こせるよう工夫をし、ご利用者との関わりの中で言葉遣いやケアに関して気付くことがあれば職員同士声を掛け合っています。仕事の中で「穏やかさ」をなくす事はないか、「明るさ」をなくす時はないか等、併せて作成されている「行動方針」も含めて管理者及び職員がそれらを守り実践に取り組んでいます。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの入り口等に理念を掲示するとともに、ご入居者のご家族が書いて下さった毛筆による掲額もフロア内に置く等して、来所された方の目に入るようにしている。行事の案内、その他広報活動時には当ホームの理念を理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方等がホームに立ち寄られた場合には是非また立ち寄っていただけるよう歓迎の態度でお迎えしています。隣接する公園で憩う人や遊ぶ子ども達とも交流があります。またホーム主催の夏祭りでは例年200名近くの近隣の方々のご参加を得て交流をもたせていただいています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>当地域にはしっかりとした形の自治会組織はないが、地元の小中学校・老人会等との交流はある。ふれあい喫茶への参加、小学校PTAの方々による定期的なコーラスの来所、近隣のお寺の主催によるフェスティバルへの参加、また近隣の商店への買い物を通じたお付き合い等から信頼関係、連携を深めさせていただいております。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町と ともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極端な個別的関係が形成されないよう日常的に留意し、離職等の場合も可能な限り穏やかな離職となるよう配慮しています。また管理者や職員は影響の出そうなケースについては、細心の注意をもってフォローするよう心掛けています。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時、OJT、また外部研修（認知症介護研修、市民救命士講習、地域ケア会議等）を受講し成果を反映させています。新たな資格の取得等については、待遇面での反映も行って意欲の向上を図っています。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム連絡会等に参加し、また認知症介護実践者研修等で知り合った事業所と交流や連携をはかり、職員会議で報告し全体化しています。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回職員会議を開催し、どのようなことも話せる場を作っています。時に応じて親睦会、外部との交流の機会づくりにも努めています。より一層のストレス軽減の方法を常に模索していきます。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も定期的に、また必要に応じてホームに出向き、管理者や職員とコミュニケーションを取り、各自が向上心を持って働けるよう努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時に得た情報等を踏まえながら、特にご入居初日には充分な対応をして不安が解消していくよう、また求められていることが実現していけるよう努力しています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談からご入居に至るまで、各自が相談援助の原則を踏まえつつ、ご家族等の不安、ニーズをよく聴いて受け止め、信頼関係の醸成に努めています。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初回相談時のニーズを見極め、当ホームへのご入居が本当に本人にとって、あるいはご家族にとって適切かどうかも含めた対応に努めています。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居のシステムがあり、多くの方がそれを経て本入居に至っておられます。またご入居後1ヶ月程度は、当然ながらどなたも帰宅願望等顕著であるので、徐々にホームでの生活に馴染んで頂けるようご家族等とも協働させていただいています。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご入居者と職員は、日々まさに、共に暮らし、過ごしなが、喜怒哀楽を共にし、学びあい・支えあう関係を築いています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ご家族等のご理解、ご協力なしにはグループホームケアは成り立たないという過言ではなく、ホームとご家族等はご本人と共に支えあう関係であるよう努めています。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでのご本人とご家族等との関係の理解に努め、ご家族等の介護負担を軽減すると共に、心理的負担をも軽減して、より良い関係性が築けるよう支援します。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親族はもとより、ご友人等との関係性が継続し、むしろこれまでよりも良い関係が形成されるよう支援に努めています。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者同士の人間関係を十分に把握し、孤立することなく、ご入居者同士が交流し、かつトラブルが発生することのないよう、良い関係性の維持に努めています。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とされる方やご家族に対しては、いつでも相談していただけるようご案内すると共に、折にふれてお便りなどさせていただくようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常にご入居者お一人おひとりの思いや希望、意向の把握に努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居相談時にご本人やご家族等から生活歴や暮らし方等について充分お聴きし、ホームでの生活に活かせるよう把握に努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>お一人おひとりにの1日の過ごされ方、心身状態、有する力、ホームでの人間関係の現状を総合的に把握するように努めており、介護計画にも反映するようにしています。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しの度に、ご本人やご家族の新たな要望等を踏まえて、関係職員で話し合いを行っています。定期的な会議(緊急案件がある場合はその都度)を開催している。また連絡ノート等を活用して、回覧方式で意見を出し合うなどしています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回の再検討、6ヵ月毎の更新を目途に介護計画の見直しを行っています。状態の変化があれば随時ご利用者、ご家族、職員間で話し合い見直しを行っています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果等は個別介護記録に詳細に記録すると共に、特記すべき事項については、管理日誌や連絡ノート等にも記録して情報を共有、実践のあり方や介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者が、安心して暮らせるようにホームが持つ資源は最大限に活かせるよう心掛けています。通院必要時は同法人病院はもちろん、他病院も家族の状況に応じて対応し、送迎等の支援は柔軟にしています。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や警察、消防、教育機関とは平素から関係性を保っており、必要に応じて協力を得る事ができます。ボランティアについてはかなりの分野でご協力いただいているが、今後共より多くのご協力が得られるよう、受け入れ態勢の一層の整備を図っていきます。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご入居者やご家族等のご意向、ご要望があれば、地域包括支援センターをはじめ、他のサービスを利用するための連携体制があります。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を通じてホーム、ご家族共に地域包括支援センターとの面識、コミュニケーションがあり、いつでも相談、協働できる体制があります。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームへの入居時には、ご家族と面接をもって必要な情報交換を行っています。また、当ホームから他の施設、医療機関等へ移られる場合にはご家族同意のもと、必要な情報を提供しご利用者の住み替えに伴う心身の安定を図れるように努めています。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、お一人おひとりの誇り、尊厳、プライバシーを重視し、ご利用者の気分を損ねるような言葉遣い、言葉掛けなどしないように充分留意しています。記録等の取り扱いについても、細心の注意を払い管理しています。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者それぞれが、ご自身の思いや希望の表現、自己決定が出来るように「待つこと」の大切さをもって支援しています。また発言や意思表示の少ない方の思いにそえるよう、様々な問いかけや言葉かけ等にも配慮しています。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活をしていくなかで、出来る限りご利用者お一人おひとりの生活リズムを大切にできるよう、職員全体で見守り、支援を行っています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員は、お一人おひとりのご希望に添いながら、衣服の選択や整理整頓が出来るように支援しています。また、理容や美容については、月1回の訪問理美容サービスで対応し、その時々で気分でご利用頂けるよう配慮しています。またご希望により、他の理美容院の利用も行えるように支援しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお預かりしたお小遣いは、自己管理が可能な方はお持ちいただいています。また、自己管理が困難な方はホームで管理し、買物の都度ご自身でお支払いしていただけるように支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所敷地内では、ご利用者が散歩や憩いを通じて草花の鑑賞や作物の栽培等がご自由に行われるように開放しています。また隣接の公園で憩う人々との集まりや買い物等の外出についても希望に沿えるよう支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者やご家族からのご希望の訪問や外出について依頼がある場合は、その準備等の支援を行うと共に、職員で対応が可能な事は出来る限り実現できるように協力していきます。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりいつでもホームの電話をご利用頂けるようにしています。また、利用時には職員はプライバシーに配慮し、一定の距離をもって個人の尊重を行っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご利用者に馴染みの方が来所された時等、職員は笑顔で対応し、来所しやすい雰囲気、居心地よい空間を作り、気軽に訪問して頂けるよう支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を通じて全職員は身体拘束について正しく認識し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠（外部からの侵入防止）で内側からは開錠できるようになっています。ご入居者の突然の外出については、チャイムやアラーム等の感知器等も利用して見守っています。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者のプライバシーに配慮し、居室、トイレ、入浴場を除き、フロアは死角がない作りとして職員は常にご利用者の所在や様子が把握できるようになっています。また、自由な外出に対してはチャイム等により見守りを行っています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者お一人おひとりの状況により、注意の必要な物品等については、ご家族と相談のうえ、自己管理または事務所管理として取り組んでいます。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	片時も目を離さない見守り、感知機器の設置等々でき得る限りの取り組みを行っています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルの設置・使用方法を全職員が把握し、対応がスムーズに行われるよう取り組んでいます。また、協力医療機関には、いつでも些細なことでも相談等ができる体制をとっています。急変時の応急手当等の訓練を講師を招いて、市民救命士講座を定期的受講しています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルの作成、地域福祉施設等の緊急避難所の把握、ご利用者と職員等による実践的な防災訓練の定期的な実施等を行っています。また、地域の方々に災害時の協力もお願いしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご入居前の面談時や入居契約時にご入居により起こり得るリスクについてご家族等にご説明し、無理のない日常を過ごすことができるように最大限の協力をいたします。また状況によって出来る限りのご協力とご理解をお願いしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事、水分摂取量、バイタル、排泄等のチェック表とご本人の様子の観察により、体調変化の早期発見とその対応に努めています。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご入居者の処方等、薬剤早見シートをカルテにファイルし、全職員が薬の内容を把握できるようにしています。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご利用者お一人おひとりの日常の様子等を把握し、水分摂取や排便の誘導、食事内容の工夫等を協力医療機関と連携をとり、予防と改善の対応をしています。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者お一人おひとりの口腔ケアは毎食後、職員の見守りにて共に実践しています。また状況に応じて、協力医療機関と連携を取り職員が支援し、口腔ケアを行います。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者が摂取する栄養バランスや水分が一日を通じて必要量が確保できるように支援します。また摂取に対して拒否があった場合は、時間の間隔をとり、形を変えるなどして可能な限り必要量の摂取の確保に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルや感染症に関する情報を集めたファイルがあり、全職員が共有し把握できるようにしています。また、感染防止委員会を設け、時々流行する感染症については、その都度会議を行い注意を喚起しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周り、調理用具等の衛生管理には十分に配慮し、食中毒の予防に努めています。また食材は新鮮な状態で保存し、過熱する生鮮食材についても調理前日に購入、保存に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の形状や色彩などは、周りとのコントラストから誰にでも親しみやすく安心して頂けるように工夫しています。またご家族や地域の皆様が出入りをしやすいように門扉は開放し、玄関周りには家庭的な雰囲気ができるよう植木や花々等を栽培し、ホームに親しみを持って頂けるように工夫をしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分における空間作りはご利用者一人おひとりの意見を尊重し、不快な状況となることが出来るだけ起こらないように配慮をしています。また、そのような状況にとらわれることなく、居心地よく過ごして頂けるように季節の花や装飾品、またはご利用者自身が作成した作品を飾ることによって共用部分であっても、ご自身の心地よい空間の一部として受け入れていただけるように工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の安全を第一に考えているため、リビングダイニング等フロア全体が見渡せる造りではありますが、それぞれに距離を保ちつつ過ごすことの出来る空間もあり、時には一人で過ごし、時には気のあったご利用者同士や職員等、思い思いに過ごせるようにソファの配置を工夫しています。またチェアの配置も工夫し、景色を眺めることの空間等の確保もしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時のご説明で、ご自宅での使い慣れた家具や生活用品、装飾品等を出来る範囲でご利用者の居室へご用意して頂くことで、居心地よく過ごしていただけるように工夫しています。また、ご利用者が作成された作品等も飾っていただけるように工夫しています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる匂いでご利用者が不快さを感じないように、換気には注意をしています。また空調の調整を行い、共有部分や居室、外気との大きな温度差がないように配慮をしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者お一人おひとりの身体機能にあわせて、安全で出来る限り自立した生活を過ごしていただけるように、段差のないワンフロアの造りとしています。またプライバシーの配慮を行いながら、さりげなくご利用いただけるトイレや浴室等の手すりの配置、フロア内の移動が無理なく出来るようにソファの配置やカウンターの高さ等を工夫しています。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者の行動力を最大限に発揮できるような環境の整備を行うと共に、混乱や失敗を招くような要因となるものはさりげなく排除し、行動の制限が無く自由で自立した暮らしを提供できるように努めています。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	ご利用者が、自由に敷地内を散策、園芸、栽培等を行うことで、リラックスし穏やかに過ごせるように取り組んでいます。また、ランチやティータイムを気のあったご利用者同士がホームの庭で過ごすことによって、ご利用者が敷地全体を居心地よく過ごせる場所と感じ、どの場所においても「ご自身の空間」と思っただけのように努めています。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

花の風では日々の暮らしの中に、ご利用者様それぞれに安らぎの場が増え、潤いのある暮らしぶりとなるように介護計画に基づいたサービスの提供に努めています。しかしすべての思いに答えることは容易な事でも無い場合もあり、時に悩み、理想と現実の壁にぶつかる事もあります。職員それぞれが話し合い、工夫を凝らし、現在のスタイルが確立されてきました。ご来客様はじめご見学者様からは『時の流れが緩やかな落ち着いた感じが、利用者様の表情からゆったりとした空間に感じられる』といったようなお声を頂いています。ご家族様や地域の皆様、ボランティアの皆様や他事業所などと、多彩な方面の方々との関わりが増えてきました。ホームでは自然と多くの方々とお会いする時間を大切に思い、地域に密着した事業所となる事で利用者様が地域の光となるお手伝いが変わらず続く事を願っています。